

序

当研究所は、昭和53年度も恒例の事業として教育論文集の刊行を企画し、論説の部・実践記録の部・翻訳の部に分けて原稿募集をいたしましたところ、各校の先生方から16編の原稿をお寄せいただきました。

本年は、16編のうち1編が論説、13編が実践記録、2編が翻訳となっています。

論説は、今回募集テーマの一つであり、スポーツを生涯スポーツという大きな視点からとらえ、特に中高年齢層におけるスポーツの必要性和その意義について強調しています。

実践記録は、13編のうち4編のみが教科指導に関するもので、他の9編はいわゆる教科外の教育指導に関するものです。教科指導に関するものも学んでいく児童・生徒に視点をあてた実践研究であり、先生方の研究の関心も、知的な教育指導の問題から、直接人間資質の形成にかかわるような問題へと拡大、深化しているようにも考えられます。

翻訳2編は、アメリカの小学校理科ならびに保健の教科書の翻訳ですが、いずれも小学校低学年の指導に参考となる点が多いと思われますので、研究所保管のアメリカ教科書と対照して読まれるようおすすめいたします。

いずれの論文も、最近の教育思潮の動向を敏感には握しながら、しかも腰をすえて教育の原点を探るという様子が伺われます。特に、昨年度の携載論文の一連のものとして、引き続き今回も応募されたものもあり、研究の深まりが見られます。このような先生方の姿勢こそ、今後の新しい足利の教育を築く大きな原動力になり、大きな期待を感じております。

以上、各先生方からそれぞれ特徴をもった論文をお寄せいただきましたが、各学校における日々の教育実践に十分生かされ、本市教育の発展に寄与されることを期待いたします。

終わりに、論文をお寄せくださった先生方をはじめ、関係者の方々にお礼申し上げますとともに、みなさまのますますの御活躍を祈念して序といたします。

昭和54年3月

足利市立教育研究所長

川 上 薫